



1. 背景とねらい

近年、果樹の苗木・幼木を中心に春先の発芽不良や枯死・樹勢衰弱が目立っています。厳冬期の強せん定により大きなせん定痕を残すと、そこからの凍害や枝幹性病害の侵入のリスクがあるとされています。そこで、休眠期に本せん定のみ行う場合と、休眠期の本せん定前に徒長枝等をせん除する秋季せん定を実施した場合の、せん定痕の面積の差を明らかにしました。

2. 成果の内容

●秋季せん定の有無によるせん定痕の面積の違い

- ニホンナシ「なつしずく」において、主幹断面積当たりのせん定痕総面積は、9月の秋季せん定と11～12月の休眠期せん定を組み合わせることで、休眠期せん定のみ行うよりも小さくなります(図および表1)。
- モモ「あかつき」において、主幹断面積当たりのせん定痕総面積は、9月の秋季せん定と3月の休眠期せん定を組み合わせることで、11～12月に休眠期せん定のみ行うよりも小さくなります(図および表2)。

| | | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------------|--------------|----|----|-------|-----|-----|--------|----|----|--------|
| ニホンナシ 「なつしずく」 | 秋季せん定+休眠期せん定 | | 収穫 | 秋季せん定 | | 落葉 | 休眠期せん定 | | | |
| | 休眠期せん定 | | 収穫 | | | 落葉 | 休眠期せん定 | | | |
| モモ 「あかつき」 | 秋季せん定+休眠期せん定 | | 収穫 | 秋季せん定 | | 落葉 | | | | 休眠期せん定 |
| | 休眠期せん定 | | 収穫 | | | 落葉 | 休眠期せん定 | | | |

図 各試験区におけるせん定実施時期(イメージ)

表1 ニホンナシ「なつしずく」におけるせん定時期^zと主幹断面積^y当たりのせん定痕総面積^x

| 処理区 | せん定痕総面積/主幹断面積(cm ² /cm ²) | | | |
|-----------|--|-------|-------|-------|
| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
| 秋季+休眠期せん定 | 1.02 | 0.87 | 0.43 | 1.06 |
| 休眠期せん定 | 1.14 | 0.83 | 0.52 | 1.28 |

^z: 9月のせん定は主枝及び側枝上の徒長枝、長大化した側枝をせん除し、11～12月の休眠期は結果枝を含めた本せん定を実施。せん定は2015年は9/3、12/3。2016年は9/6、12/7。2017年は9/8、12/14。2018年は9/17、11/15に実施。

^y: 休眠期時点の地上高30cm幹周より推定 ^x: 直径5mm以上のせん定による切り口の面積の合計値

表2 モモ「あかつき」におけるせん定時期^zと主幹断面積^y当たりのせん定痕総面積^x

| 処理区 | せん定痕総面積/主幹断面積(cm ² /cm ²) | | |
|----------------|--|-------|-------|
| | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
| 秋季+休眠期せん定(3月) | 1.08 | 0.72 | 0.54 |
| 休眠期せん定(11～12月) | 1.16 | 0.75 | 1.00 |

^z: 9月のせん定は主枝及び側枝上の徒長枝、長大化した側枝をせん除。12月および3月は発芽前に結果枝を含めた本せん定を実施。せん定は、2016年は3/11、9/5、12/6、2017年は3/13、9/5、12/6、2018年は3/12、9/16、11/28に実施

^y: 地上高20cmの幹周より推定

^x: 前年3月～当年12月までに計測した、地上高150cm以下にある、直径5mm以上のせん定による切り口の面積の合計値

3. 成果の留意点

- ・過剰な秋季せん定は、樹勢を低下させる恐れがあるため、主枝及び側枝上の徒長枝、長大化した側枝をせん除する程度にとどめましょう。
- ・休眠期のせん定は、ニホンナシでは降雪前の11～12月に、モモは厳冬期を避けた3月に実施することが望ましいです。